

やすらぎ



「歎異抄」 後序 続き

されば、かたじけなく、わが御身にひきかけて、われらが、身の罪悪のふかきほどをもしらず、如来の御恩のたかきことをもしらずしてまよえるを、おもいしらせんがためにてそうらいけり。

(真宗聖典六十四頁)

親鸞聖人のつねの御述懐は善導大師の金言にすこしもたがわずと唯円大徳は受けとめた。「されば、かたじけなく、わが御身にひきかけて」と、親鸞聖人は自分のことだとおっしゃっているのです、が、ほかでもない私たち弟子達が、身の罪悪の深きほど知らず、罪

「歎異抄」(第五十二回)

樫 暁 講述

悪性というものに気がつかないで暮らしている。親鸞聖人はご自分のこととして頂いておられ、聞いた唯円大徳は、これは善導大師の金言と少しも変わらない。これはほかでもない、親鸞聖人が我が身にひきかけて自分のこととしておっしゃっているけれども、私たち弟子が聖人の教えを深く聞かないで、自分の罪深く罪悪深重も知らず、如来の御恩の深いことも知らずして、自分の分別だけで迷っていることを知らせんがためである、と、聖人が亡くなられてから、唯円大徳があらためて深い意味を感じておられる。

つまり、「歎異抄」というのは、親鸞聖人と異なる生活をして、自らの分別心で善悪をたてて、本願

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781代
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 池田孝郎

を疑う、深く信じない、そういう弟子のありかたというものを自分に引き受けて、批判するわけです。その批判は、ただ理性的批判ではなくて、信心の上で親鸞聖人のお言葉に照らされて、自分自身の愚かなところを深くあらわしている。そして、自分と同じように教えを聞いた弟子が間違ったことを云っていることを批判する。そういう書物です。異を歎ずるというのは、単なる批判書ではなく、弟子の異を歎く。自らのこととして歎く。そういう主旨をもって書かれています。その書物を結ぶにあたって親鸞聖人のつねのおおせというものがここに挙げられていることを私は深く考えていかななくては

いけないと思っている次第です。
(当寺)こ法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く



報恩講講師 田代俊孝先生



報恩講お斎

春季彼岸会法要 三月十一日水午後一時三十分厳修

子供会報告

旅行記

詳細は三頁
詳細は二頁
詳細は四頁



昨年の暮の「紅白歌合戦」の歌手達の歌詞をテレビの画面の下の方幕を追って感じたことを、新年元旦の修正会に於いて話したことでありますが、多く共通することとは、不安、悲しみ、苦しみの現実から立ち上がって未来へ進み行こうと叫んでいる様に感じたことでありました。老いも若きも現実に不安を感じて、そこから未来こそ明るくあつて欲しいと願って歩み出して行こうと、自分にも、他にも鼓舞し絶唱しているトーンでしょう。

「過去も悪く、現在も悪く、未

来も悪い。」という諦観された言葉を遺しておられる方もいます。

この言葉こそ絶望の諦観でありましょう。未来は明るいという幻想で歩む人類であれば、いつしか絶望の淵に立たされるでありましょう。問題は、「滅びても滅びないもの」とは何にかの問いでありましょう。

お釈迦様は「諸行無常」と三法印の一つとして示されておられます。有名な雪山童子と羅刹の逸話が「涅槃経」にあります。その偈文は、「諸行無常 是生滅法 生滅滅已 寂滅為楽」であります。絶望の淵を超えた世界の発見でありましょう。この世界の発見の歴史がお釈迦様から、インド、シルクロードを通り、中国、朝鮮、日本と仏法は伝えられ、真宗七百五十年、この私のところまで届けられたのであります。生滅する無常の世界を超える永遠の法の発見こそ、人類の教主釈迦如来です。この永遠の不滅の法を求めた億々の求道者が到達し、そして、又、命懸けで伝えて下さったのが仏道であります。このことを一言で云えば、「死んだら終りではない。」世界の発見です。

曾我量深師は、「お釈迦様が悟られた背景が南無阿弥陀佛、お釈迦様が説かれた法が南無阿弥陀佛。」と端的に示されました。

それでは「南無阿弥陀佛」とは何にか。中国に仏法が伝わり、インドの言葉の音を漢字で当てて表現した言葉です。「南無」とはナ

モの音で最も敬った尊敬の言葉。「阿弥陀」はアミターバー、アミターユス、の音で限りなき光、限りなき命の言葉。「佛」はブツダーの音で目覚めた者の言葉です。それを続ければ、「限りなき光、限りなき命に目覚めた者に南無したてまつる。」となります。

私が「南無」する前に、大いなる世界から「南無」されていることに、今、気付く世界です。これが、「南無と南無の感応道交。」と申します。言葉を超えた大きな世界から願われている私達人類でありました。否、生きとし、生けるものに願われた世界でありました。東日本大震災のチャリティーソングの「花は咲く」の歌詞、「わたしは何を残しただろう。」から滅しても滅しない言葉、「南無阿弥陀佛。」の六字のみ名です。後世に残すのはこのこと一つです。

鈴の音

春に逢うたら花がひらく。如来に撰取されたら、念仏の華がこぼれ咲く

細川 巖
(蓮如上人御一代記聞書讀仰より)

真の依り処

人として生きる。いのちの尊さが見えにくい社会、あちらこちらで心がさび愚痴の音が聞えてくる。生きる為に一番むづかしい人間関係につかれ自分勝手な道を選び、又思うようにいかず疲れはてる。どうしたら良いのでしょうか。ひとつ一生を何に捧げるかを考えてみては。人生の晩年をこれで良かったと思うものをみだしてみたいものです。世間道を歩んでいますといつの間にか不条理な事に合います。そんな時皆様ならどうされますか。阿弥陀は世間とはそういうものだと思えます。それは自分が存在するからだ、この存在が一番問題なのでしよう。南無阿弥陀佛は人間にとって真実でありこの真実の教えに触れると私達は新しい生き方が始まる方向が定まると申されます。

岡田ノリ子

お彼岸



便利で快適で物質的には満たされてあるこの時代社会で、何も申すことは無いと思う反面、精神的に満たされているだろうか、反比例して内面を揺さぶるものがあります。

物が無い時代に戻ることはできないとしても、時代社会のスピードに人間がついていけない、そのギャップが重くのしかかってきているようにも思われます。

問題はこの時代社会に生まれ、現在を生きている様々な境遇というものを引き受けていく根源的意欲が

無いと、不平不満、愚痴だけで終わってしまう、空しい人生しかないのですが、生きる勇氣、励ましを照らして下さっているのは「如来の真心」と感ずるのは、合理的科学的思考ではなく、理知分別をどこまでも破つて大きな世界へ導いて下さるお心。阿弥陀の本願ですよという声をどこまで聞けるにかかっています。

誰もが空しくない人生を歩みたいと思つて頑張つて生きています。毎日がかけがえのない貴重な一日であることを確かめあえるのは、手が合わさる生活があるかどうか。

お彼岸を通して本当に手が合わさることをみつめてみませんか。亡き人を偲びつつ一緒に一念仏しましょう。副住職(釈徹照)

春季 彼岸会法要

- ・3月21日(水)春分の日
- ・午後1時30分～3時30分まで(1時受付)
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。預骨されている方は率先してお参り下さい。
ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月18日(日)～24日(土)の期間(但し21日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させて頂きます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

子供会報告

子供会「ポニークラブ」
子供報恩講 坊守 池田 邦子

十二月二十五日(月)またたく間に一年が過ぎようとしている今日、大人九名、小人六名の出席を得て子供報恩講をにぎやかに迎える事が出来ました。陽子さん導師に続き、発声のパーツを大人、子供に荷負つて頂き勤行が勤まりました。今回恵美さんの知人で、譲原さんと云う方のサンシン演奏ひきがたりを聞かせて頂きました。沖縄民謡と云われるのか、何か心踊り反面、さびしさ、あわれさを感じる事でした。三輪さんには、住職の提案で寺岡一途先生の「永遠をつらぬくもの」の一節を読み聞かせて頂きました。



白玉作り



譲原えりかさん演奏



集合写真

た。又、報恩講のいわれ、紙芝居と皆熱心に食い入る様に聞いてました。お斉にはシチュー、白玉ダングを小さい手を真白くして楽しそうに手伝ってくれました。又、プレゼント交換をしたり、八百屋さんのお店に並んでる品物の名前、寿司ネタの名前、魚の名前で盛り上がりました。恩徳讀で終了しました。次回は四月四日(水)花まつり、お出かけ下さい！

ひとくち 歎異抄

羅漢：煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界に救いはあるのか。

「よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします。」後序



「過去・現在・未来の人間世界には救いはない。念仏の一道のみ救いの道です。」

川越喜多院の五百羅漢

旅行記

平成二十九年十一月十二日、光照寺旅行「親鸞聖人「一切経」校合の足跡を訪ねて」―相模路への日帰り旅行―と題して神奈川県へ旅行しました。幹事長谷口氏、幹事淡海氏、平山氏。参加者の方々の感想をお寄せいただきました。皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

〔編集長 副住職池田孝三郎〕

【旅程表】

光照寺↓永勝寺（横浜市戸塚区）↓（昼食）↓鎌倉大仏殿
高德院（鎌倉市）↓眞樂寺（小田原市国府津）↓光照寺

「親鸞聖人「一切経校合」の足跡を訪ねて」日帰り旅行を終えて旅行幹事は？

谷 口 正 司

今年の光照寺旅行は、「ヘーロー」で始まって、「はぁー」で終わった旅行でした。

これは、予想していた往路の渋滞が全然なく始まって、全然予想すらしていなかった帰路の渋滞に起因したため息です。

今回の旅は、光照寺旅行として十年ぶりに日帰り旅行を企画したのでありますが、結果としては宿泊旅行

の方が楽だったかも……。

「親鸞聖人「一切経校合」の足跡を訪ねて」と題しての相模路は、感慨深く感じた人、疲れただけの人、それ以外の想いの人、それぞれの色々な感想を抱かれたのではないのでしょうか。

私としては、旅程が予定通りに進まず、永勝寺参観以降はやきもきする事が多く、精神的な疲れを一番感じていたのであると思います。

旅行の参加者数は、当初予定した人数には足りませんでした。朝早い集合時間にもかかわらず遅刻する人もなく、事前に副住職様が行った集合時間厳守のご案内のたまものと頭が下がる想いです。

永勝寺ご住職様のお寺の由来や宝物についての熱心な説明があり、予定時間を大幅に超過してしまつたこと、光明寺に向かう渋滞もあり、予定していた光明寺の拝観を諦めざるを得ませんでした。

眞樂寺でもご住職様の熱心な説明と、宝物の拝観に、こちらも大幅に予定時間を超過したことで、帰路の小田原厚木道路の想定外渋滞とで、光照寺の予定帰着時刻を一・五時間も遅れてしまいました。

いつもなら、「旅行を楽しんでいたただけでしょうか。」と書くところですが、今回は、「ご住職様・旅行参加の皆様、大変お疲れ様でした。」とだけ書かざるを得ないのが

残念です。

日帰り旅行と観光地の鎌倉、甘く見ると……。〔猛省〕

これに懲りず、来年の光照寺旅行にご参加いただければ幸いに存じます。

肌で感じる親鸞聖人の足跡 鎌倉路

淡 海 雅 子

小春日和の休日、鎌倉は想像以上の込み具合でした。今までの経験値から予想をして計画をいたしました。が、またしても予定どおり見字がでず旅行幹事として企画の難しさを感じました。

さて、今回のテーマは「親鸞聖人の一切経校合の足跡を訪ねて」でした。一切経校合とはどういう事から始まり旅行の計画に合わせ色々調べる機会をいただきました。そんな中で伝承されたものに歴史的な評価を私自身がどう捉えるかをこの旅行の課題としました。今回訪ねた永勝寺、眞樂寺の両寺様では親鸞聖人の鎌倉での様子を物語る色々なお話を伺うことが出来ました。数々の残されたものが歴史を語っておりました。それらの品々を拝見しながら親鸞聖人が生きられた時代に思いを馳せました。武田、北条家の権力抗争の中で鎌倉の置かれた特異的な狭間でその時代を生きた真宗の教えを民衆に説かれた親鸞聖人の御苦労が偲ばれました。同時代に生きた人が

今生きているわけではありませんし、時代の流れに消されてしまった出来事がほとんどです。また、残されたものには人々によつてもろろん都合よく偽色化されたものもあるでしょう。しかしそうした中で親鸞聖人の足跡が語り継がれ残されているという事は残さずにはいられなかった人々々の思いで伝えられてきたのでしよう。歴史という視点から親鸞聖人の根底にある揺るがないものを伝えなくてはならなかった一大事に触れさせていただきました。合掌。

永勝寺・眞樂寺を訪ねて

平 山 正 三

今回は「一切経校合」に参画された親鸞聖人ゆかりの永勝寺・眞樂寺の二カ寺を訪ねた。

最初は、永勝寺に伺い、ご住職の説明を受けた。

元は天台宗であつたが聖人が関東教化の頃、帰依して真宗に改宗したとのことであり、一二二七年から三四年の七年間の内三年間当寺に逗留されたとのことであります。昔は甲斐武田との縁が深く、紋は武田の家紋で、北条に攻められ武田を頼り、江戸時代に現在の処に戻つたとのことである。

境内には阿弥陀堂があり、親鸞聖人自彫りと伝えられる聖徳太子像と阿弥陀如来像が安置されていた。その他、鎌倉幕府の北条時氏から聖人

に贈られたと伝えられている木製の「枕」があり、痛みが激しいが一部に漆塗りの装飾が施された箇所が残っていて元は立派なものであったことが窺える。

また、境内に聖人が仏前に供えるために自ら掘ったと伝わる「保命水」と呼ばれる井戸が残っていた。この井戸は枯れたことがないとのことである。

次に国府津にある眞樂寺に伺い、お若いご住職の説明を頂いた。この眞樂寺も先の永勝寺と同様に元は天台宗の古刹であったが、相模の国を巡教されていた聖人に帰依し真宗に改宗されたとのことである。お寺の縁起によれば、聖人が稲田の草庵から、この地に行化の歩みを延ばされ、国府津の近隣の人々に勧化されたとのことで、その処に堂が建てられた。それが「勧堂」と称して、お寺から離れた処に残っているとのことである。



永勝寺にて

る。当日は時間がなく残念ながら拝見することができませんでした。本堂には如来像、右側に親鸞聖人像、左側に聖徳太子像が安置されており、その左側には絵伝図が掛けられていた。本尊は室町時代のものでこのことである。

境内には帰命堂があり、中に「帰命尽十方無碍光如来」「南無不可思議光佛」と記された「帰命石」と呼ばれる二メートルほどの石がある。この石は、一切経を積んだ唐船の船底にバランスを取るために積まれた八枚の石の一つで聖人が指で名号を書いたものであると由来が記されているとのことである。また、本堂の左側には聖人が手植えされたと伝わる菩提樹がある。

今回訪れた両寺とも歴史が古く由緒あるお寺であり、親鸞聖人との関わりの深さを痛感し、聖人のみ教えの偉大さを感じた。

永勝寺・眞樂寺両寺のご住職には、ご丁寧なご説明を頂き感謝申し上げます。

また、ご同行の皆様には帰りの渋滞で帰着が予定より大幅に遅れたことを幹事の一人としてお詫びいたします。

次回は是非多くの皆様が参加されますように。

光照寺鎌倉の旅の驚き

住職 池田孝郎

この度の旅行は何度か訪れた鎌倉であったが、親鸞聖人の足跡として伝承される、「一切経校合」を焦点として幹事の方々が企画された驚きの旅であった。

その驚きとは何にかについて記してみたい。一つ目は、永勝寺のご住職よりのお話の中に、鎌倉大仏の後ろの山一つ越えたところに聖人の開かれた「常葉道場」があったと聞きし、「一切経校合」の背景と「常葉道場」を知りたいと思い、副住職にインターネットで調べてもらい、出て来た資料で驚嘆した。それは鎌倉市の常盤に一向堂という地名があり、聖人が常葉の一向堂に拠点を持っていたと同われるとするものであった。又、その資料に、親鸞聖人の娘覚信尼公の息子唯善が、如信上人彫刻の親鸞聖人の真影及び遺骨を取って、この地で布教していたとする記事であった。伝え聞いていた伝承では、唯善が聖人の木像であるご真影の首を切って持って関東に下ったがゆけぬ知らずと聞いていたが、鎌倉で布教していたとする伝承に驚いたことでした。

二つ目は眞樂寺のご住職より国府津に「勧堂」とごう道場を親鸞聖人を迎えるために建てられ、聖人六十歳のときから六十二歳の八月まで逗留し、鎌倉へも往復されていたと

聞く。又、「勧堂」には、蓮如上人も東国巡拝の折に参拝されていると云う。誠に驚きであった。親鸞聖人が越後流罪の後に、関東へ赴く理由の諸説を伝え聞くが、私はこの度の鎌倉への旅で聖人のおこころに、「鎌倉幕府」を意識した、「新しい時代」に念仏弘道の願いがこめられていたと思わされたことでした。

「一切経校合」も親鸞聖人の偉大さを語るものであり、その背景の鎌倉に思いを寄せると、聖人の関東のご布教のご苦労を偲ばされるものであり、驚きと共に誠に有意義な旅でありました。有難うご座居ました。

合掌

鎌倉一切経校合の旅

坊守 池田邦子

十一月十二日(日)参加者十九名の方々と共に、日帰りバス旅行(八時)「いざ鎌倉」へ向け光照寺より出発。行きはよい／＼帰りはこわい、寺に到着が予定より一時間半オーバーの八時頃でした。お帰りを待っていて下さった御門徒さんには大変御心配をおかけしてしまいました。さて永勝寺さんでは寺の由来と、一切経校合の為の親鸞聖人鎌倉での滞在に於いての御苦労や、眞樂寺様の歴史、聖人の並み／＼ならぬ御教化の足跡等貴重なお話しを伺う事が出来ました。脳裏に留めておきたいと思えます。相模湾のキラキラ光る大宝海を

感じつつ、由比が浜での昼食のおいしかった事、鎌倉大仏殿の胴内めぐりの初体験あり、いつもながらの幹事さん達の気配りや、頭の体操問題には敬服しました。御参加をされた皆様大変お疲れ様でした。良い旅が出来たかと思えます。次なる旅行にも是非御一緒を願うことです。有り難う御座居ました。 合掌

宗祖に思いを馳せて(相模)

副住職 池田 孝三郎

毎回、幹事さんと旅行の企画を立てるときから場所の選定に悩みます。今回、神奈川県や鎌倉というと親鸞聖人とは縁遠いと思ってしまう方は多く、自分も他宗の影響が強いと思って、あまり注目していなかったのですが、宗祖の七百五十回御遠忌のときより、各寺の伝説や由来が集められ、まとまったものが出版されたことよって、宗祖の足跡がくつきりとしてきました。お寺の由来に宗祖のゆかりがとても色濃く、宗祖は、神奈川県や鎌倉との接点が非常に強い地域だったということを学びました。そして、お念仏布教によって、当時の住職などがお念仏に帰依して、お寺は改宗したり、宗祖の影響は大きいことを感じました。

今回、鎌倉における宗祖の「一切経校合」という『口伝鈔』にあるエピソードをテーマに旅行をして、永勝寺と眞樂寺のご住職様には幅広く

懇切丁寧なご案内で説明を頂き感謝申し上げます。宗祖のご苦勞を偲び、そして同時にお念仏に生きられた歩みが今日に脈々と伝わっていて、宗祖を身近に感じた旅行でありました。

幹事様はじめ参加者の皆様と貴重な旅行が出来ましたことに御礼申し上げます。 合掌

『親鸞聖人「一切経」校合の足跡を訪ねて』

大塚 陽子

今回の旅行は、神奈川県相模路への日帰り旅行で、以前も箱根方面へ日帰りの旅行をしたが、今回は鎌倉など別の方面の旅で楽しみにしていた。

最初に訪ねた永勝寺は、私の知人のお寺で、副住職ご夫婦が結婚式をお寺でされた際に女ちようを頼まれて行った以来で久しぶりでしたが、とても歴史もあり親鸞聖人とゆかりのあるお寺であったとは初めて知り、感慨深いものがありました。

次に有名な高德寺の鎌倉大仏を見学し、大仏の胎内めぐりをして中に入ったのは初めてだったので、貴重な体験ができました。

最後に行った眞樂寺は、小田原市国府津という所にあり、このお寺も親鸞聖人が京都へ帰られる際、七年间も滞在されたという場所で、歴史を感じました。

神奈川県にも親鸞聖人が足を運んで行ききっていた足跡があり、当時の様子が浮かび、タイムスリップしたような旅行でした。

光照寺や旅行幹事さんには、お世話になり、有り難うございました。

旅行感想

岡田 ノリ子

空気がピンと冷え、空は真青絶好の行楽日、一行は相模路の旅に出發しました。私は元氣に参加出来るこの身に感謝し、幸だと思いました。道路状況は心配した程ではなく快適に進み、車中は穏やかでこの旅行に参加された方々にお礼を申し上げます。楽しい語らいをしています、戸塚の永勝寺に到着、当寺では私達が参るのを待ちしていらつしやいました。ご住職さんのお話しでは、元は天台宗の寺院であったが、親鸞聖人の関東教化頃に当寺の住職が帰



鎌倉大仏にて

依され真宗を学び戦乱の世に生きる苦しみ悲しみに耐えていた人々に光が差し込み多勢の人達が救われた事でしょう。命水の井戸、阿弥陀如来立像、当時は聖徳太子の教えもさかんであったのでしょうか。又親鸞聖人がお宿りになった時に使用されたといわれる枕等にお目にかかり、當時をしのび不思議な気がしました。なぜでしょう。それ程までにこの道を歩まなければ生きられなかった事は、昔も今も変わりはないが迷ってばかりいる私をゆすぶって下さったり、時には罪惡の私に目覺よと言われています。海がキラキラとまばゆい湘南の海、そこでサーフィンを楽しんで居る人達、その浜辺のホテルで美味しい食事に舌つづみを打ち、次の鎌倉の大佛殿(高德院)を見物、こちらは座阿弥陀様です。弥陀は苦しい時、辛い時大変な事があつた時いつでもここにいて下さい、座つて待っていますと言われているように思いました。

最後の眞樂寺には予定よりおそくなり、気ぜわしく感じてしまいました。が、お話を聞くと親鸞聖人は五六才頃からしばしば稲田の草庵よりこの地に行化の歩みをされ人々に勧化されました。常陸の国を發ち京都に上られる時に立ち寄られた際には、お導き頂きました人達は聖人になごりをおしんだそうです。それから京都の都でやり残された大切なお仕事を

され、今も生きて私を導いて下さっています。
南無阿弥陀佛

日帰りの旅

馬場繁子

神奈川県へ渋滞もなく着きました。午前中に永勝寺にお参詣りして、眞樂寺へは午後からお参詣りいたしました。御住職の貴重な講話を拝聴しました。歴史ある古品等は大切に展示されていて、説明を聞きながら次第に緊張いたしました。光照寺旅行案内のお陰で、親鸞聖人さまのことが少し理解出来たように思いました。

鎌倉大佛殿は大勢のお参詣りの方に囲まれて、美しいお姿でした。久しぶりに手を合せ感激いたしました。初参加でしたが有意義な一日を過ぎて頂きました。御住職をはじめ幹事の皆様や関係者の方々、ほんとうに、有難うございました。

相模路の旅

藤原自雄

今年は縁あつて六月の紫陽花の時期、そして今回と、湘南・鎌倉を二度も旅することができました。五十年近く前になりますが、私は相模原市に住んでおりました。距離的に近く、歴史にも興味があつたので、当時はしばしば鎌倉を散策したものです。そんな懐かしい土地に久々に足を踏み入れ、過ぎ去った昔のことを

色々と思ひ出しました。

今回の旅行で最初にお参りした永勝寺は横浜市にありますが、鎌倉に隣接する地域でした。背後には山があつて、鎌倉に多くみられる寺と同様なたたずまいと雰囲気があり、とても心休まる思いがしました。

永勝寺への参拝の後、バスは北鎌倉から鎌倉市街地に入りました。円覚寺や建長寺、東慶寺など、禅の名刹が並ぶ北鎌倉駅から鶴岡八幡宮脇までの鎌倉街道を、ゆつくりとバスは進みました。鈴木大拙と縁の深い松ヶ岡文庫のある東慶寺の近くでは、昨年の寺の旅行で行った金沢の鈴木大拙館を思い出しました。

お楽しみの昼食の後は鎌倉の大仏で有名な高德院にお参りました。鎌倉の大仏は阿弥陀如来ですが高德院は浄土宗の寺ですから座像です。眞宗門徒にとって馴染み深い阿弥陀

如来のお姿は立像です。お姿こそ違いますが、もちろん同じ阿弥陀様。同じ気持ちでお念仏させていただきました。

高德院の参拝の後、バスは海を左手に見ながら一路、国府津の眞樂寺へ向かつて走りました。湘南の海を見ながら、車中の会話の内容はいつしか加山雄三などの青春の思い出へ、若者のようにはしゃぎながら楽しい時間を過ごしました。

国府津の眞樂寺は海からそう遠くない小高い山の中腹にありました。石段を上った所に本堂があり、町を見下ろすことができます。寺の歴史は古く、もともとは天台宗の寺であつたが、一二二八年に、時の住持が親鸞聖人に帰依して、浄土眞宗に改まったとのこと。最初にお参りした永勝寺と同様に、聖人が巡教や鎌倉での一切経の校合の際にしばしば逗留され、聖人縁の寺とのことでした。また蓮如上人も参拝されたとのこと、いよいよもって歴史のある寺であると思ひました。



眞樂寺にて

今回の旅行では、相模でも聖人が布教活動を積極的なさつたといふことを改めて知ることができました。寺で茨城県

(常陸)を旅行した際に感じた「聖人の情熱と思ひ」を、ここ相模路でも感じる事ができたように思ひます。

色々なことがあり、色々な思い出を残してくれた旅行となりました。旅行幹事の皆様をはじめ、共に旅行をさせていただいた皆様には色々とお世話になりました。ありがとうございました。 合掌

旅行に参加して

三輪民子

天候に恵まれた良い旅行でした。ホテルでのおいしい食事を楽しく頂き、バスの中で用意された朗読の説明に感動しました。

バスから見る鎌倉の街をゆつくり散策出来ないのは残念でしたが親鸞聖人が常陸国稲田に滞在していた時、鎌倉幕府の命により招かれ七年間、逗留することが多かった眞樂寺等を見学して、どのお寺でも立派な由緒ある建物を拝見出来気持ちよくお話し下り、チョット時間が気になりましたが無事に帰ることが出来ました。露座にまします大仏様にゆつくり暖かいお心頂き鎌倉の良い思い出になりました。

幹事様達の御苦労のお陰で楽しい旅行が出来ました。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしく願ひします。楽しみにしております。



寺務所より

◆法要のご案内

●春季彼岸会法要 三月二十一日

(水)、午後一時三十分より厳修

◆光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧ください。総会は六月二十三日。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学特別任用教授) 三月二日、五月二十九日、七月三日、九月十八日、十一月二十六日、午後一時半～四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

三月十七日、四月二十九日、五月二十七日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰』(六)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

三月二十八日、四月二十日、五月十八日、午後二時～四時まで。『真宗の簡要』(住職著) サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)。

「無量寿経に聞く」(下巻) (延塚知道著) を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。

講師は副住職。「顕浄土」の教学

―親鸞における現生不退の視座―

(副住職著) サブテキスト「今日

のことば」『真宗の生活』を学んでいます。三月十二日、四月二十四日、五月二十二日。

◆聲明サークル「響き」

第五期聲明サークル。二ヶ月に一回開催、二年間。日常勤行を楽しく学んでいます。三月十二日、五月二十二日。講師は副住職。

◆絵解きサークル

親鸞聖人、蓮如上人など、絵解きを通して学んでいます。四月二十四日、六月十八日。

◆子供会「ポニークラブ」

花まつり四月四日開催。

◆さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。四月十四日、六月十六日。

講師は四衢亮氏。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご利用下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しく願います。

俳句・川柳

吉澤

光昭

邪鬼居らば出でて来られよ年の夜
転読の声の高まる初御寺
雪景色一夜に描く山河かな

山田 恒

懺悔の夜薔薇が一輪散つてゆく
夕なずむ菩薩の母の子守唄

短歌(詩)

佐々木

玄吾

公園で百才のけやき目にとまる
百年時代の我と重なる

大経の会ひらかるる光照寺
テキストを読み感想語る

佐々木文字

日野の春一番乗りは露の臺
豊平の地のご縁尊き

父母逝きし齢まで我も生かされて
畑打つ身の幸せ思う

赤秀 品枝

ナンブレにはまりし我は今日も又
精進目標そこそこ

去く年も来る年も又つつがなく
護られてありしみ仏の道

梵鐘

私たちは本当のことを話しているでしょうか。自分に都合のいいことを上手に話し、人間関係を取り繕っていないでしょうか。言葉は魔法です。言葉はいつしか話し手の意志を離れあちこちに拡散されます。本当のことも本当でないことも全部聞く人の都合に合わせて飛び回ります。フェイクニュースに踊らされて、評論家の言葉を鵜呑みにしてさらに逆手にとって。これは言葉の責任ではありません。私の問題です。でも、私自身をはっきり分かせてくれる言葉があるはず。その言葉が本当なのです。それを聞く為に聞法会に行きます。 南無阿弥陀仏。 釈尼雅亮



故郷冬景
山田 邦興 画